

文化の秋 「芸術鑑賞会」 2021.11.9 (火)

東西バラエティー寄席

～東西の笑いの姿を知る～

を開催しました。

11月9日(火)、3年に一度の「芸術鑑賞会」を実施しました。

寄席は、漫才から始まり、落語体験教室、上方落語、色物(太神楽)、江戸落語と盛りだくさんでした。特に落語体験教室では、生徒・職員が小話を体験し会場が盛り上がりました。また、漫才と落語の違い、上方と江戸落語の違い、色物の必要性などの説明もあり、初めて漫才や落語を生で聞く生徒が多く、笑いの絶えない2時間となりました。

[1]漫才



[2]落語教室



[5]江戸落語



[4]色物(太神楽)



[3]上方落語



[6]生徒代表あいさつ&花束贈呈



(生徒感想A)

「とても楽しかった」という気持ちを久しぶりに味わったなと思ったし、青春の1ページになりました。コロナ禍で失いかけていたものが、今日この一時でわかったような気がしました。おっしゃられていたように「芸術家の方々はとても難しい仕事だけど、人を幸せにできる。」という言葉聞いて、夢に向かって頑張ろうと思いました。

(生徒感想B)

漫才では即興の返しにもすばやく答えることのできる柔軟さにとても驚きました。落語では、身振りや音だけで場面や登場人物の様子を聞き手側に連想させて、想像していたものよりもずっと面白かったです。また、話と話の間も完璧でさすがプロだなと思いました。太神楽はまるで和風のサーカスのようでとても楽しめました。

(生徒感想C)

はじめてテレビではなく自分の目で鑑賞したのでテレビで見るより迫力があって、ちょっとしたことでも面白かった。落語家の方が落語は小説のようなものだとおっしゃっていたが、小説よりも話に入り込むことができ楽しかった。落語家の方が話をしている途中で目を見て話をされるので、自分に直接話しかけられているようで楽しかった。ときうどんの話は聞いたことがあってすでに知っていたがはじめて聞くかのように楽しく聞くことができた。